

令和7年2月 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	令和7年2月3日（月） 午後2時30分～
場 所	青葉市役所4階会議室及びWeb会議
出席者	<p>【議長】 小島健一議員</p> <p>【議員：10名】 田中ゆき議員、山下正人議員、伊藤くみこ議員、横山正人議員、藤崎浩太郎議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員、赤野たかし議員、内田みほこ議員、青木マキ議員</p> <p>【説明局員：29名】（青葉区：23名）</p> <p>中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、綱河土木事務所長、宇多消防署長、壱井福祉保健センター担当部長、富澤総務課長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 青葉区美しが丘公園周辺エリアにおける「子育てしたいまち推進モデル地区」の取組について (政策経営局経営戦略課 資料1) 第5期青葉かがやく生き生きプラン（青葉区地域福祉保健計画）の策定について (福祉保健課 資料2) 青葉区制30周年事業について (区政推進課 資料3) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 青葉警察署管内の情勢について (青葉警察署 資料4) 青葉区火災・救急状況（令和6年12月31日現在） (青葉消防署 資料5)
報告事項 1	青葉区美しが丘公園周辺エリアにおける「子育てしたいまち推進モデル地区」の取組について
発言の要旨	<p>資料1に基づき、政策経営局経営戦略課から報告</p> <p>山下議員</p> <p>歩行者空間の整備について、美しが丘公園のところからたまプラーザ駅含めてこの駅一体が子育てしやすい街の推進モデル地区だと思う。前から課題になっている駅前のケヤキの根上がりが何とかならないと、ベビーカーが通れない。誰もが安心して歩けるということだとすると改善が必要。その辺は、視野に入っているのか入っていないのかをお聞きしたい。</p> <p>また、新規の子育て支援の場を設けるというのはいい取組だと思うが、コーディネーターを誰が主体的にやるのは難しい問題だと思う。役所が中心になってそろって何かやっても堅苦しい話だろうから誰も来ないし、お母さん同士だったら、お母さんだけでなく保護者同士のコミ</p>

ユニティをつくるという意味では、コーディネーターの役割というのが非常に大事になってくるが、その辺の立てつけはどうなっているのか教えてほしい。

綱河青葉土木事務所長 現在のところ、たまプラーザ駅前のケヤキそのものを整備する予定にはなっていない。公園の周辺や公園に向かって歩いていく道の整備はしているが、このモデル地区に限らず根上がりなどで歩きにくいというようなところがあるため、土木事務所でも対応していくと考えているが、今年度、来年度というところでは今のところまだ予定しておりません。

山下議員 それは予算の関係か。

綱河青葉土木事務所長 予算の関係もありますが、駅前はまだ調整ができていないため、今この時点ではお答えできない。

藤本こども家庭支援課長 子育て支援者会場の設置は、こども青少年局の事業の一つでもあり、青葉区ではこのほかに15会場、子育て支援者という人を配置して行っている。子育て支援者は、市長から委任された方でログハウスでも週1回、子育て支援者に、子育て相談やお母さんたちのつなぎを行ってもらう。周知等も積極的に行っていく。

田中議員 朝の居場所づくりモデルの件で、昨年度は利用児童が4校5名に満たないぐらいだったが、来年度利用すると想定される人数がおよそどのくらいか。

朝の過ごし方に、改善が必要だという声があったが、体育館の片隅で静かに過ごすというのが基本だと思う。ボール遊び等の遊びはいろいろな条件でまだできないということであるが、朝の過ごし方で何か来年度の改善点があれば教えてほしい。

また、送迎に課題があるというふうにも聞いている。地域のスクールゾーンや交通安全対策をしていく中で、今後、保護者の方が学校まで送ることを義務としないで地域の見守りの中で子供たちが何とかその時間に登校できるようにしていくような考え方があるのか。

万が一、利用児童数が大幅に増えた場合、人員体制については、今年度までやっていた人数では不足すると思うが、どのように対応していくとお考えなのか。

飯田政策経営 正確な人数はまだ把握できていないが、昨年、こども青少年局が保育

	<p>局経営戦略課長</p> <p>所等の保護者にアンケートを取っていて、「あれば使いたい」という方が17%強いたと聞いた。そこから換算すると、両校で40名強は一応、使いたいという層には入ってくるかと思う。ただ、実際それが使われるかどうかは分からないので、これから確認していくと思う。ただ、事業実施の周知は、美しが丘小と美しが丘東小については既に保護者に対して行われていると聞いている。そういう意味では、昨年に比べると早い時期から周知できているため、多少、利用数が増えると考える。</p> <p>2つ目は過ごし方の部分だが、体育館や教室でぽつんとしてしまうなど、なかなか子供たちにとっても行きたいと思えるようなものではない部分があるのであれば、そこはしっかりと改善していかなければいけない。一方で、安全面で、2人体制で見ているので、限界はあると思うが、その中の活動の充実というのは、今回8校増えていくなかでしっかりと検討していきたいと思う。</p> <p>送迎は他の都市でも、安全とのバランスを取のが非常に難しいと聞いている。ただ、先ほど申し上げたアンケートの中では、利用したいが使いにくいと答えた方のうち、8割ぐらいの方が、送迎が負担だからとすることを挙げているので、そこが課題だと思っている。そういう意味で、全ての学校ができるかどうか分からぬが、10校に拡大する中で、一部の学校でどういう条件だったら保護者の送迎がなくともできるのかなども検討していくと聞いていたため、そういうことをやりながら探っていければと思う。</p> <p>児童数が増えてしまった場合、恐らく30人、40人来てしまうと、2人で見ることは難しいと思うので、そこも利用の申込み状況を見ながら、活動内容と多分セットになると思うが、どういう体制で見ていくのかとすることを検討していきたいと思う。</p>
田中議員	<p>モデル事業ということで、昨年度の実績から急展開かなと思いました。10校に増やすというのは時期尚早なのではないかと思う一方で、今おっしゃったように、他の地域で得られた知見をまたこちらに返していくということもできると思うので、引き続き子供たちにとって良い政策になるようお願いしたい。</p>
おさかべ議員	<p>昨年の決算で質問させていただいて、個別の点での施策、これはどんどん横展開していってほしいという要望をした。東ねてやる手法について初年度はどういった成果があったのか、そして2年目を迎えてどういった効果を期待してどういった目標を立てているのか、改めて青葉区から聞かせてほしい</p>

	<p>中島区長</p> <p>昨年は、急遽、走りながら考えるというようなやり方で來た中で、なかなか希望者が思ったほど集まらなかつたり、いろいろなことがあつた。ただ、その中でいろいろと見えてきたこと、やはり事前の周知が大事だということについては、今申し上げましたように、少なくとも青葉区での取組については早くから周知して、保育園に声をかけたりしていく。</p> <p>歩行者空間なども、当初、歩道だけをやるということだったが、やはり歩道の根上がりなどの対策だけではなく、ベビーカーが通りやすいような空間をというようなご意見などを踏まえ、来年度に向けてさらに公園側も対応していく等の形で、それぞれやっていく中で気がついたことについて7年度は具体的に取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>新規となるものも、美しが丘公園周辺というのは、割と若い世代の方が多いところで、保育園等もたくさんあるが、保育園に行かず、お母さんが子供たちをずっとおうちで見ている、そういうような子たちが多い。また、皆さんなかなか周りとの関係が築けいなくて、相談する場所が分からぬ、相談しにくいという方がいるということが、地域の中に保健師などが入っていく中で見えてきた。こういったことを少しでも解消しようということで、今回これも新規に入れている。</p> <p>こういう形で、この1年間やってきた中で見えてきたものを一つ一つ、2年目になる7年度については改善して、さらにそれを広げていきたいと考えている。</p>
	<p>おさかべ議員</p> <p>束ねてやる手法というのは、今回が初めてだと聞いた。幾つもの施策を一挙に一つの地区でやることでの効果というか手ごたえといふか、そこについてお聞かせください。そして7年度はどういったところを目標にされているのか。</p>

中島区長

これについて、私はとてもよかったですなと思っている。それぞれのところがそれぞれのタイミングで入っていただいても最終的には良くなつていく。ただ、一つの地域に集中的に投下されることで、我々区役所もその地区全体を、例えば土木事務所だけとか、こども家庭支援課だけとか、区政推進課だけ、地域振興課だけという形で考えるのではなくて、区役所全体でそれについて考えていこう、いろいろなアプローチの仕方があるのではないかということを考えることができたので、この手法は私はよかったですなと思っているし、こういったことをきっかけに、「子育てしたいまち」だけではなくて、区役所全体が縦割りではなく地域の特性というのも一緒にになって考えていく、そんな区役所にしていけたらなと思っています。

	<p>赤野議員 美しが丘公園エリアということで、私の事務所があることもあり、よく地域をまわらせていただくが、なかなかミスマッチで、せっかくの横浜市さんの事業が、いいことやっているねというお声が残念ながら入ってこないというのがまず1点。先ほど言った周知が足りないとかいろいろな原因があると思うが、ぜひとも改善していただきたい。役所が幾らサービスしても、それが地域の人から見て、いいことやっているねという声が少しでも高まらないと、何のために高い税金を払っているのだということになるので、高い評価をいただけるよう努力していただきたい。</p> <p>次に小学生の朝の居場所づくりについてであるが、むしろ地域の声としてあるのは、特に夜の時間帯。午後6時から9時、この時間帯が空白となっている。塾に通う子供はいいが、塾は勉強を教えていますから、時間がきたらぱっと解放する。今、職場の働き方もいろいろで、朝が遅い分、夜が遅くなるお父さんお母さんが多い。そうすると、小学生の子供たちは、居場所がないため、いろいろなカフェなどで時間潰しをしている。この状況は本当によくない。夜の時間帯という是有る意味、役所の行政サービスからするとウイークポイントかもしれないが、青葉区の子供たちの特に夜の時間帯、午後6時から9時ぐらい、子供たちが駅周辺にあふれている。いろいろなお店に小学生のお子さんが時間潰しに入っている。こういう状況は決していいことでは思えない。ぜひこういった地域ならではの課題をきちんと把握していただいて、市としても対応していただきたいと思う。</p> <p>飯田政策経営局経営戦略課長 青葉区以外の、このエリアでないとそういう問題は顕在化してこないのかもしれないが、このエリアについてはそういう課題があるということをしっかりと踏まえてやっていかなければいけない。今年度は地域の何人かの方に集まっていたら、子どもの声、保護者の声を聞くワークショップを開いた。まさにそういうところから課題をしっかりと把握して、このエリアだったら何ができるのか、それを考えていきたいと思う。</p> <p>赤野議員 都心に住んでいない方だからこそ、職場からの通勤時間が長いとかの問題があり、どうしても都内で働く方が多い中で帰る時間が遅くなり、その時間にどうしてもお子さんが一人になる。これはもう地域色、私は横浜特有の問題だと思う。ぜひこういった対策を行うことによって、周りから見て横浜市はここまでやってくれるので。これは地域色ですから、ぜひこういったことを把握してほしい。</p>
--	---

	<p>青木議員 次世代郊外まちづくりの、公共空間を活用した取組というのがいま一つ具体が分からないので、もう少しご説明いただけたらと思うのと、それと共に創スペースを活用した脱炭素化を一体的に推進するモデルというのも連続しているようなので、ご説明をもう少し頂けるとありがたい。</p> <p>それから、新規の子育て支援者会場の増設だが、それまでも幾つか会場があるように聞いているため、そちらでの実績や効果を教えてください。</p>
飯田政策経営局 経営戦略課長	<p>まず、次世代郊外まちづくりの公共空間の活用だが、今年度は美しが丘公園のライトアップされるツリー前にステージを組み立てて、そこでこどもたちが例えばダンスの披露をするなど、公園の中で、普段はただの地面を何かの発表をする場に変える等といったことをやっている。来年度も引き続き東急さんと建築局の住宅再生課が一緒にやりながら、普段使っていない場所がどう使えるのかといったことを検討していく。</p> <p>脱炭素化については、今年度は太陽光パネルとEVのカーシェアといったものを行っている。来年度は、蓄電池の設置と、脱炭素化に向けた普及啓発を行っていくと聞いており、そういうことに取り組んでいこうと考えている。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>現在、子育て支援者会場は15か所やっておりますが、昨年度の実績は、大体15組から20組ぐらい。参加者の効果については、相談できる仲間ができたということと、子供同士の関わりがあることで発達を促す効果もあると思う。</p> <p>子育て支援者としては、子育てしているお母さんたちの姿を見て地域の活動に生かしてくれている。子育てネットワークを地域ごとに展開しているが、そこでお母さんたちの姿を発言してくださることで、地域の活動が活性化している。具体的には地域のマップを作る地域もあるし、各団体が連携して活動をするところもある。支援者を通じて地域への波及効果があると考えている。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>次世代郊外の公共空間を活用した取組について補足すると、何年か美しが丘公園を使いながら、イベントをどのようにやるとより使いやすいとか、そういうことで取り組んでいる、建築局と東急さんの次世代郊外の取組の中で行われている事業である。今年度は先ほど言ったステージが大きなテーマで、地域の公園でいろいろなイベントをやるときに、ステージをつくるのもお金がかかるとか、そういう課題があったので、</p>

今回は特に美しが丘公園を使っていろいろなイベントをやるが、そういったものが可能であれば、自分たちで自作できるキットを使ったようなステージでイベントを行うとどんなものかといったことをテーマに行われたと聞いている。結果としては、業者さんにつくってもらうよりもちょっと低い木製のものですが、使ってみると意外と使い勝手はいいということで、今度3月に予定されている桜まつりでも、その経験を生かしながらステージを作製していきたいというような報告を聞いている。

青木議員 支援者のはうですが、15組から20組というのは月でという認識か。

藤本こども家庭支援課長 週1回の平均である。

藤崎議員 効果検証はこれから年度末までに実施という話だが、効果検証が終わらないながらもモデル事業が継続されているので、一定程度、この間、継続する価値があると評価されたのだと思う。そのあたりを、全般的に聞けたらなというのが1つ。

今幾つも議論があったが、小学生の朝の居場所づくり。これは今回、8校増やして10校展開ということになったが、個人的にはもうちょっと違うやり方がよかつたのではないかと思う。他都市では、三鷹だと、例えば11月にスタートした割に1日10人ぐらい利用があったとか、そういうのもかなり政策経営局で把握されていると思うので、必ずしも年度当初に始めなくてもそれなりに一定数の子供が利用したという実績のある自治体もあるし、その他も全校一斉でスタートしていたりとかいうのを見ていると、利用してもらう認知度の向上のために、一部の学校でやってうまくプロモーションできないぐらいだったら、せめて青葉区は全校一斉実施とか、市内全体だと予算が大変かもしれないが、やはりプロモーションを全体でかけて、全体の皆さんに一定程度、利用促進できるようなスタートの仕方にしたほうが、よほど制度の理解と利用の促進につながったのではないかというのが個人的には残念だったなと思っている。青葉区においては2校、美小と美東小のみを維持しているので、もう少し、せめて区内で拡大したらよかつたのではないかとか、どのような判断で青葉区の2校はそのまで、残りはよそで増やして分散型で令和7年度やっていこうと判断されたのか、その辺を教えていただければと思う。

飯田政策経営局経営戦略課 手法について、効果検証ということで並行しながら、走りながらこのモデル事業を進めてきているため、先ほど中島区長からもあったが、施

長	<p>策を束ねるということの良さ、プラス面等が一定程度確認できている。いわゆる縦割りになてしまふところに横串を刺していくというような面とか、そういった良さがあるという中で、今回引き続き続けていくということを考えている。</p> <p>政策経営局から、これをやったほうがいいのではないかとか、この事業に投下できるのではないかと、局の目線で事業をばらばらと打っていっても、なかなか相乗効果が出てこないということも見えてきているので、この課題を踏まえながら、7年度は鶴見区において区の発意でやっていくことを一つ具体的な横展開と考えている。</p> <p>小学生の朝の居場所づくりだが、こども青少年局から聞いているのは、今回やったところが比較的駅から近いところだったので、駅から近いところと駅から遠い学校という選定をして、さらに、保育園の朝延長の利用率が高いところを重視しながら、かつ、方面を分散させて8校を選んだと聞いている。藤崎先生がおっしゃるとおり、プロモーションという意味で言うと、まさに面向的に、一気にやっていくことの効果というものであろうかと思うが、7年度に向けて、まずはモデル事業を拡大していくという中では、駅から近いのか遠いのか、朝延長の利用率が高い等の視点で選んだという状況。</p>
藤崎議員	<p>ニーズはここにあるのではないかと想定してモデルをつくり、結果を検証してから、さらに令和8年度につなげていこうということなのかもしれないが、必ずしも行政当局側だけで全てのニーズを把握し切れることは思えない。青葉区全体で一回やってみると言ったのは、青葉区全体の中でもいろいろなニーズが、地理的な状況とかあって、そうすると、広報よこはまの青葉区版で一気に紹介できたりもするし、各子育て支援拠点をはじめ様々な子育て施設において、いろいろなところから子供を通わせている人たちが一気に情報を発信できる。それによってニーズがしつかり掘り起こせるのではないかと思う。ぜひ政策経営局としても、こども青少年局側の考えもあるうかと思いますが、ニーズがどこにどうあるか分からぬものを探るときに、一定程度勢いよく始めていかないとしぼんでしまう可能性もあると思うので、府内でご議論いただきたいと要望する。</p>
横山議員	<p>今年度はなかなか参加者が低迷しているという議論がずっと来ているのですが、その理由が、年度途中から始まったからとか、あまり周知されていなかったからという理由になっているが、そもそも需要があれば、年度途中であろうが周知されていなかろうがやっているわけだから参加する方は多いのではないかと思う。次年度は10校に拡大するという</p>

ことだが、先ほどの答弁の中で、今年度実施している2校の需要が17%あるということですけれども、17%の需要が本当にあるのだったら、今年度の利用者がもっと増えていてもおかしくないのではないかと思った。その見解について伺いたい。

子供の過ごし方なのですが、指導に当たっていらっしゃる方というのは、こういった子供たちを扱うスキルを持っていらっしゃるのかを伺いたい。例えばプレイリーダーのような形で子供たちに対して時間の過ごし方をリードしていくような方でないと、それぞれの子供たちが自分たちで時間を使っていく、時間を潰すという言い方が正しいかどうか分かりませんが、時間を使っていくことになってしまって、結果としてあまり楽しくないのではないかという感じを私は受けている。この子供たちの過ごし方についてどのように考えているのか伺いたい。

先程赤野先生もおっしゃっていた朝の需要と夕方以降の需要の話になるが、今、キッズ以外の子供はすぐ学校から出なさいという指導になっていて、学校に残って遊んだり、学校で時間を使ったりすることができなくなってしまっているので、こういったところも改善が図れると、トータルで子供たちの居場所の確保につながるのではないかと思う。

飯田政策経営
局経営戦略課
長

昨年、登録していない方、利用されていない方に理由を確認している中で一番多かったのが、子どもの登校時間に合わせて働き方等を調整していたためというが出た。そういった中で、やはり早めに周知したほうがよいのではないかということ。横山先生がおっしゃるとおり、本当に使い勝手がよくてニーズがあれば、恐らく年度途中でも使われたであろうということもあるし、先ほど申し上げた、使わない理由の中の80%ぐらいは送迎が負担だということも出ているため、そういった課題をクリアしていくことで、使いたいけど使えないという方が減っていく、そういうことを検討していきたいと思う。

人材について、シルバー人材センターに委託している。いわゆるプレイリーダーのような専門的なスキルということではなく、あくまでも居場所の安全面を管理する、見守るという、プログラムを提供する預かりの場ではなく居場所を安全に運営するという視点のため、そういった中では、活動がバラエティーに富むというか、そういったものはなかなか難しい状況かと思う。子どもたちにとって、どうしたら行きたい場所になるかということは引き続き検討していきたいと思う。

最後のキッズ以外の部分は、夜も含めてになるが、もしかしたら、子ども青少年局の所管課ではそういった視点も課題感を持っているかもしれない。そこは課題認識として持ち帰らせていただきたい。

	横山議員	今の答えだと、私自身、納得というかしっくりきていないが、もうちょっと制度設計の精度を高めていかないと利用者が伸びないような気がしますので、ぜひご検討いただきたい。
	行田議員	要望という形で声があれば教えていただきたいのですが、これからいろいろ教えてもらいたいと思っているし、期待も大きい事業なので青葉区には頑張ってもらいたいと思っている。その上で、保護者の方から伺っている中で、こども青少年局とも調整しているが、朝ご飯の問題がある。学校は衛生上持つていってはいけないとか何とかと言うのもよく分かるが、小学校1年生、2年生で朝7時に学校に行って給食の時間まで食べないというのはなかなか大変で、恐らく今後乗り越えていかなければ課題だと思う。声を聴くというのは、もちろん保護者の声もそうですし、子供たちの声もしっかりと聴くような形で頑張っていってもらいたいと思う。
	飯田政策経営 局経営戦略課 長	おっしゃるとおりで、これも朝の居場所の過ごし方の一つだと思う。食事もそうだし、どういうプログラムになるか、そこはしっかりと安全面と中身の充実を図っていくということでこども青少年局も考えていると思うので、今日の話は持ち帰らせていただきたい。
報告事項2 第5期青葉かがやく生き生きプラン（青葉区地域福祉保健計画）の策定について		
発言の 要旨		資料2に基づき、福祉保健課から報告
	赤野議員	青葉区は人口減が顕著。それをすごく危惧していて、中島区長はじめ、いろいろな区政推進にご尽力されていることは十分感謝しているが、この辺のことについて、住み続けられなくなっているのではないかという懸念がある。今回の策定に当たってはその原因を、年代別もあるのですが、何でこんな数字が出ているのかということをよく分析した上で具体的のプランをつくっていただきたいと思う。
	大崎福祉保健 課長	人口減ということで、まさに地域では特に担い手減ということが大きな課題になっているので、そこをいかにカバーして住み続けやすいような街をつくっていくかというところを計画の課題としていきたいと思う。
報告事項3 青葉区制30周年事業について		
発言の 要旨		資料3に基づき、区政推進課から報告
	田中議員	様々な事業をやっていただいて、本当にありがとうございます。これ

	から事業の目的の「住みつけたい・住みたいまち」であるために、この事業がどのように効果があったかというのは、これから区民意識調査等で何か評価として測れる場とかがあるのか。
高向区政推進課長	昨年の11月頃、30周年事業についてのアンケートを実施していて、約250の回答を頂いている。その中で、今回の事業を通じて区に対する愛着や、ふるさと意識が高まったかどうかという質問をしたところ、約8割の方がそういった効果があったと回答している。そのほかにも個別意見として、青葉区に対する様々な思いを寄せていただいている。
田中議員	30周年という大きなイベントだったと思うが、単発で終わることなく、今回で意識が高まったということであれば様々な事業を、継続していけるものはしていただきたい。
横山議員	30周年だから、青葉区の歴史の中でこの30周年の節目でこういうのがあったらというのが残っているといいなと、振り返りでそう思った。これから40周年、50周年とあると思うのですが、そういう視点で周年事業というのを考えたほうがいいのかなというふうにも思った。いろいろなことを実施したが单発で、レガシーとして残るところがどこにあるのかなという疑問があった。
高向区政推進課長	それぞれの事業は実行委員会をはじめとして、様々な方に参画いただいて実施した事業が、多くの区民の皆様にご参加いただいて、皆さんと一緒に盛り上げることができたという点においては、一定の成果があったと思っている。レガシーとしては、今回を機に区民の皆様に改めて区への愛着や地域の絆を感じていただけて、それが今後のまちづくり区の発展につながっていくということがあればいいなと思っている。先生のおっしゃるとおり、わかりやすく形が残るようなレガシーはお示しできないが、そういった趣旨で周年事業を実施させていただいた。
藤崎議員	今回、歴史の歩く冊子なんかも発刊されるなど、一つ、盛り上がったというか、結構人気があったのではないかと思うのは、「青葉物語」の再放送。皆さん本当にいろいろなことを工夫されて取り組まれて大変だつただろうなと思うのだが、見て分かる昔話ってやはり人気があるんだなと思った。また「青葉物語2」をつくってほしいと言うつもりはないですが、今、YouTubeを使っていろいろな広報もやっているが、皆さんの30周年事業も含めて自治会や地域の再開発の前後等、映像資料とか残していくと、最終的に10年たったときにその映像資料を編集するだけ

	<p>で何かができるたりとか、40周年とか50周年とかそういうところを見据えて、地域で活躍された人のインタビューかもしれないし、街の移り変わりかもしれないし、毎年少しずつ蓄積しながら映像資料を残していくけれど、また40年、50年と、区制の周年事業をやっていくときに、皆さんに喜んでもらえるものがつくれるのではないかと思った。</p>
高向区政推進課長	<p>映像という部分においては、「青葉物語」のようなものは今回制作することはなかったが、ケーブルテレビの番組を通じて、例えば「青葉物語」を制作した方々や、歴史散歩のマップを制作された方々にインタビューするなどして、今回の事業に携わっていただいた区民の方の声を映像として残すことはできたと思っている。先生がおっしゃるとおり、もう少ししっかりとした形で予算を取って映像資料を残すということにつきましては、また今後の周年事業の参考とさせていただきたいと思っている。</p>
その他1 青葉警察署管内の情勢について	
発言の要旨	資料4に基づき、青葉警察署から報告
その他2 青葉区火災・救急状況（令和6年12月31日現在）	
発言の要旨	資料5に基づき、青葉消防署から報告